



【展覧会名】 能登島ガラスコレクション 新収蔵品展～ガラスのカタチ～

【会 期】 平成 29 年 10 月 28 日(土)～平成 30 年 4 月 15 日(日)

休館日 平成 29 年 11 月 21 日(火)、12 月 9 日(火)、12 月 29 日(金)～平成 30 年 1 月 1 日
(月・祝)、1 月 16 日(火)～1 月 19 日(金)、2 月 20 日(火)、3 月 20 日(火)

開館時間/9:00～17:00(12 月から 3 月は 16:30 まで)※入館は閉館時間の 30 分前まで

【会 場】 石川県能登島ガラス美術館

【作品点数】 48 点(うち新収蔵品 38 点、既収蔵品 10 点)

【入 館 料】 高校生以上/個人 800 円(20 名以上の団体 700 円)、中学生以下 無料

【主 催】 石川県能登島ガラス美術館(公益財団法人七尾美術財団)

【お問合せ】 石川県能登島ガラス美術館 〒926-0211 石川県七尾市能登島向田町 125-10

TEL:0767-84-1175 FAX:0767-84-1129

E-mail: takemoto@nanao-af.jp(本展担当学芸員:竹本) / yoneda@nanao-af.jp(広報担当:米田)

■ 展覧会について

石川県能登島ガラス美術館は、平成 25 年度から平成 28 年度の 4 年間で、寄贈・購入作品あわせて 83 点のガラス造形作品を新たに収蔵しました。日本におけるガラス芸術の先駆者である岩田藤七、日本の美意識を反映させた「飾筥」^{かざりばこ}シリーズで世界的にも高い評価を得た藤田喬平の作品をはじめ、現在も第一線で活動する現代ガラス工芸作家、また、今後の活躍が期待される若手作家による作品が加わりました。

ガラスは、高温で水あめのように柔らかな状態となり、自在にかたちを変える一方で、冷えて固まると光を透過・反射させる物質へと変化します。このような、ガラス特有の性質と向き合いながら、作家たちは私たちの認識を超えるガラスの姿を生み出しています。本展では、新たに収蔵した作品と、既収蔵の作品から厳選し、“ガラスのカタチ＝ガラスの多様な表現”について紹介します。

■ 展覧会のみどころ

日本の現代ガラス芸術の先駆者たちの表現

宙吹き^{そへ}の技法と自身の色彩感覚とを融合させ、多彩で流動的な造形を生み出した岩田藤七(1893-1980)、そして岩田が設立した岩田硝子製作所から育っていった息子の岩田久利をはじめ藤田喬平など、日本のガラス芸術を牽引した作家たちの作品が新たに収蔵されました。また、彼らの活躍と同時期に欧米で起こったムーブメントと合わせて、現代ガラス芸術の先駆者たちの作品を紹介します。

多様なガラス造形表現の魅力

1960 年代に起こった「スタジオ・グラス運動」によって、造形言語としてのガラス素材の可能性が広がり作家の自由な表現が生まれました。高温では水あめのような液状になり、常温では透明な固体となる不思議な性質を持つガラスの加工には、実に様々な技法が存在します。作家たちはガラスという素材を独自に解釈し、それに寄り添い、独自の表現を開拓しています。そこに表れた様々な姿(色彩、透明性、形、模様)の妙をご高覧ください。

■ 会期中のイベント

冬はガラ美でほっこり！ ガラス彫刻体験

ガラス美術館スタッフが教えるガラス彫刻体験。

年齢問わず参加でき、オリジナルのガラス器を作れます。

【日時】 12～2 月の毎土日

*土曜日:13:30～15:30、日曜日:10:00～12:00

*2018 年 1 月 2 日(火)、3 日(水)

10:00～12:00、13:30～15:30

【会場】 石川県能登島ガラス美術館 会議室

【対象】 どなたでもご参加いただけます。

【参加費】 500 円(別途入館料が必要です)

【所要時間】 約 30 分

【申込】 申し込み不要です。直接会場にお越しください。



■ 広報用画像



1. 存在の痕跡／津守秀憲／2016年



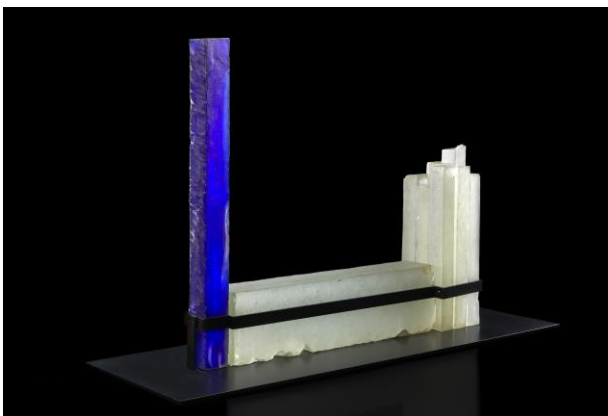
2. Chernobyl - Fukushima／パヴェル・ヴォノスキー／2015年



3. 風に向かって／小林貢／2002年



4. Natural Lace／塚田美登里／2016年



5. No.120428／イワタルリ／2012年



6. 「小文間の植物」シリーズ 2013-02／藤原信幸／2013年



7. 飾筒「瑞雲」／藤田喬平／1993年頃

※1～7 全て石川県能登島ガラス美術館蔵 撮影：岡村喜知郎